

# 市民と信濃の高原を歩く (森林倶楽部を実施して)

管理課 ○高山 暁美

久保田幸子

はじめに

森林倶楽部とは、いわゆる国有林野事業の良き理解者となっていただく「緑の応援団」作りを指向するもので、平成元年から長官通達に基づき制度化され、東京・大阪・名古屋営林局の都市圏から順次実施されてきた。

長野営林局では県内に自然に恵まれた環境が沢山身近かにあり、又同様のイベントを県が無料で実施しているため、会員を募集しても実際応募があるかどうか、企画倒れになりはしないかと、平成3年まで見送ってきたが、全国的にも定着したという事で今年度実施に踏み切った。

実施しての結果は、予想以上の好評を得たものと考えているが今後、継続し・発展させていくためにはどうあるべきか、参加者のアンケート調査により検討した。

## 1. 森林倶楽部の概要

- (1) 会費は、個人会員5千円、家族会員1万円で、参加費は、イベント毎に設定し公募を開始した。
- (2) 会員になった方には、各営林局のイベントへの参加、森林情報紙の提供、スキー場・宿泊施設の割引制度（森へようこそ）の特典が与えられる。
- (3) 平成4年度のイベント計画は表のとおりである。なお参加費はバス代、昼食代、インストラクター代、保険料を含めて3千6百円～4千6百円で、子供は半額とした。（表-1）

表-1 イベント実施箇所、実施内容

	第1回	第2回	第3回
実施日	6月14日	7月26日	9月27日
実施場所	軽井沢町	茅野市	野沢温泉村
行事内容	乗馬体験 ハイキング (石尊山へ) 森林教室 山菜グルメ	北八ヶ岳登山 (ロープウェイ) 槲寄生観察 高山植物探勝 森林教室	森林浴 紅葉狩り きのこ汁グルメ 野沢温泉浴
参加費	大人 3,600円 小人 1,600円	大人 4,600円 小人 2,300円	大人 4,600円 小人 2,300円
集合場所	軽井沢駅前	上諏訪駅前	局、長野駅東口
〃時間	午前9:00	午前9:30	午前8:00



写-1 軽井沢石尊山登山

## 2. 森林倶楽部の実施

### (1) 会員の募集

- ア. 4月上旬に林野庁、営林局でそれぞれ公示すると同時に公募を開始した。
- イ. 4月20日に各新聞、テレビに記者発表したところ、サンケイ・日経新聞で記事になった。又、NHKのテレビでは朝夕及び昼の時間帯にお知らせとして放映され、さらにラジオで16日間に亘り毎日1時間おきにPRしてもらった。
- ウ. 営林局のPRとしては新聞折り込みを長野・松本市を中心に3回、1万2千枚配布し、さらに職員によるビラ配布を植樹祭・森林フォーラム会場・デパート・長野駅前で実施した。
- エ. 又、ダイレクトメールを2千5百通OB・関連事業体へ送付した。
- (2) 会員の数については、当初の予想を上回る198名でその内訳は個人84名の42%、家族114名の58%である。(図-1)



写-2 インストラクターの説明

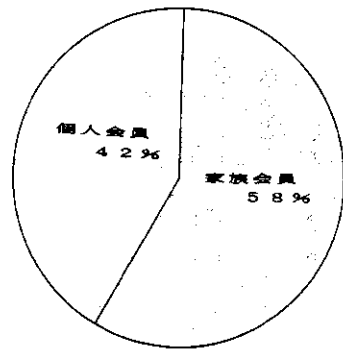


図-1 個人、家族会員別内訳表

### (3) イベントの実施状況

#### ア. イベントの内容

- (ア) 1回目は6月14日(日)、山菜の時期に合わせて岩村田営林署軽井沢の石尊山を中心として実施した。乗馬体験・石尊山登山・森林教室を目玉とし、昼には山菜グルメと称し、ウド・タラノメ・竹の子・ニセアカシヤの花を天麩羅にして食べていただき大変好評を得た。
- (イ) 2回目は7月26日(日)、高山植物開花の時期に合わせて諏訪営林署八ヶ岳を中心に、登山・高山植物探勝・シラベ・アオトドの稿枯観察を目玉とし、お昼にはとん汁・トウモロコシ・トマトを出して喜ばれた。

(ウ) 3回目は9月27日(日)、紅葉の時期に合わせて飯山営林署野沢温泉を中心に、紅葉狩・ネイチャーゲームを目玉にお昼にはキノコ汁グルメを実施して、おかわりが足りないぐらいの盛況であった。

- イ. 安全体制についてはイベント毎に全員に1日保険をかけると共に必ず登山上の注意事項等を説明し、インストラクターには1人ずつ救急薬品を携帯させ又、万一に備えて休日診療の確認をして万全を期したが一件の事故もなく終わった。
- ウ. イベントの良し悪しはインストラクターの説明にかかっているので、局・署のインストラクターは現地を確認し数回の打ち合わせをしてイベントに望んだ。
- エ. イベントでは毎回写真を写し、参加者に記念とし送付した。



写-3 乗馬体験



写-4 軽井沢血の池



写-5 野沢温泉リフト



写-6 八ヶ岳登山

### 3. アンケート調査による結果と分析

#### (1) 募集方法。

ア. , 効果的なPR方法については、グラフの通り、ダイレクトメールで知った、テレビ・ラジオのお知らせで知ったの2つで全体の大半を占めることから、最も有効な媒体であると考えられる。(図-2)

イ. どこにターゲットをあてるかは、会員の男女別では女性、年齢では40代・50代、職業別では主婦が最も多いことから、子育ての終わった主婦に照準をあて、その家族も含めて参加していただくというのが必要かと思われる。又、男性では50～60代の退職後の余暇として参加しているという人が多いことから、退職後の夫婦を対象とするのも必要と思われる。(図-3, 4)

ウ. 地域的には県内が84%と相当数を占めているが、東京・神奈川県からの参加者も11%あり、京浜地区へのPRも必要かと思う。県内の参加者では、長野・上田・松本市の都市部に集中しており、今後もこの3都市を中心に募集するのが得策かと考える。(図-5)

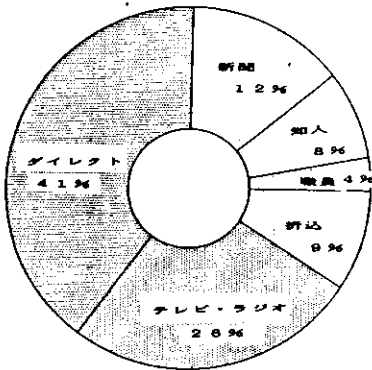


図-2 会員の募集方法を問うて知りましたか

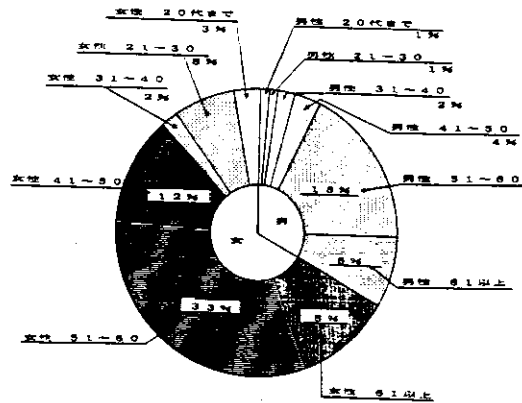


図-3 男女別年齢別の内訳



写-7 乗馬体験



写-8 ネイチャーゲーム

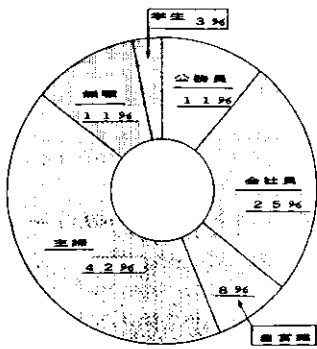


図-4 職業別

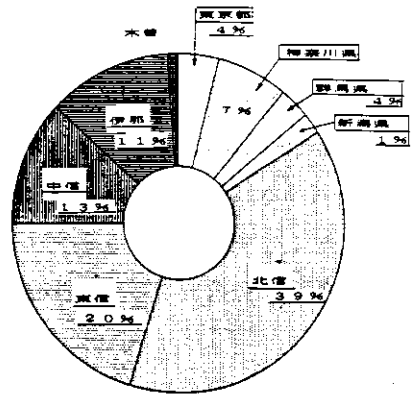


図-5 都道府県別内訳

## (2) 森林倶楽部に対する市民の要望

ア. 加入費については75%の人が、参加費についても80%の人が適当と答えており、イベント等の内容に満足できれば相応の額を支払ってもよいと考えているようである。(図-6, 7)

イ. 参加の動機についてはイベントへの参加目的が最も多く、森林レクリエーションに期待を寄せているのが解る。(表-2)

ウ. 他局の同様のイベントに参加したい人も機会があればを含めると89%あり内容によっては遠出してよいと考えているようである。(図-8)

エ. 又、おせじも入っているのですが、全員の方が来年も森林倶楽部に参加したいと答えており、担当者として意を強くしております。

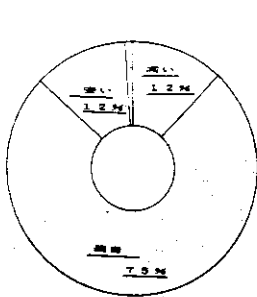


図-6 加入費について

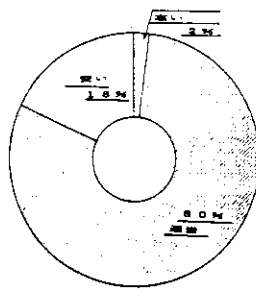


図-7 参加費について

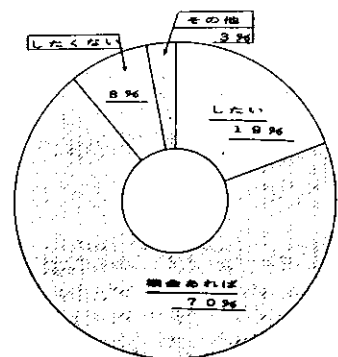


図-8 他局の同様のイベントに参加したいを望みますか

表-2

森林倶楽部に参加しようと思った動機は何ですか

イベント参加	情報を得るため	最速措置	
83%	2.6%	0	複数回答

(3) イベントの内容についての質問

ア. 今後期待するものとしては複数回答だが森林浴・自然観察と、森林・野山を歩きたいという希望が多く、林業体験・見学の意見もあり森林・林業に大きな期待をしていることが解った。(表-3)

イ. インストラクターの説明等はちょうどよいと答える方がほとんどで、森林・植物を中心にユーモアを交えての説明は評価されている。(図-9)

表-3 イベントに期待するものはなんですか

森林浴	自然観察	山菜採取	林業体験	林業見学	歩くスキー	その他	
68%	74%	25%	13%	13%	8%	3%	複数回答



写-9 山菜グルメ

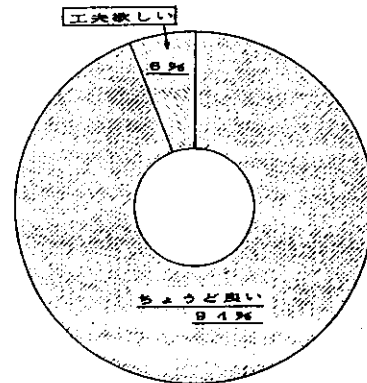


図-9 インストラクターの説明内容について

(4) イベントに対する評価

ア. 意見を書いていただいたところ、森林・林業に対する認識を新たにしました。山の重要性・働き、宮林署の人々の苦勞が良く解った。等の好意的な意見や、良い森林浴ができた。森林・植物に関する説明大変参考になった。昼食の天麩羅・山菜・キノコ・とん汁大変おいしく毎回楽しみにしています。等、主として自然に接すること、昼食のメニュー、インパクトのある行事に期待する様子がうかがえた。

イ. 反省すべき点では、老人には長距離だが若い人には歩く距離が短い。もっと自然観察できるよう配慮してほしい。山での時間がほしい。年代別の班分等工夫がほしかった。と、お年寄りと健脚組に班割りをして行動して欲しいとの指摘や、自己紹介、グループワークによる会員の親睦が図れる方法を検討してほしい。イベントの行動表を事前に送ってほしい等、今後の課題であると思う。

#### 4. まとめ

##### (1) 今後の方向

ア. 募集方法でターゲットは、アンケート調査から40～60代の子育ての終わった主婦と退職年齢の男性を家族を含めて対象とし、地域的には県内では長野・松本・上田市を中心に又、東京を中心とする関東圏とすべきと考える。関東圏の人々は交通費が少々かかっても自然にふれるために参加したいと考えているようである。

イ. PRの方法としては選ばれた私という感情をくすぐるダイレクトメールが有効で、テレビ・ラジオで記事として紹介してもらうのも信用性が高く、安心して参加できると認識しているようである。

##### (2) イベントのあり方

ア. インストラクターに期待するものとして、森林をゆっくり歩きながら樹木・草花・鳥・昆虫の観察をしたいとする人が多数を占めてる。

イ. 又インパクトのあるテーマに興味を示し参加する人も多かったことから、目玉となる行事を考えていくことが課題となる。

ウ. さらに昼食にも期待する人が多く、自然の中での山の幸が良かったとの意見が寄せられているので、国有林でまかなえる山菜・キノコ等を大いに活用していく必要があると思う。

イベントに当たっては、この3つのものを組み合わせて計画することが今後の会員増加につながるものと思われる。

#### おわりに

私たちににとっては初めての森林倶楽部で期待と不安の中で実施してきたが毎回多数の方から礼状をいただき、口コミによる会員が回を重ね増えてきた。他局加入の会員にも参加していただいた。又、会員の中に元朝鮮営林署の職員の方がおり、そのOB雑誌に内容を紹介して下さった。お世話になったのでとソバ屋さんが材料持参で腕を振るってくれた。このように会員との交流も多く、会員の皆様に励まされながら一件の事故もなく無事終ることができた。

今後は、この森林倶楽部の内容を充実しながら、市民と国有林のパイプラインとして「緑の応援団」作りを推進していきたいと考えている。